

Exposition de Haruhiko Kaneko, maître céramiste d' Ishigaki au Grand Palais

グラン・パレにて、石垣焼作家金子晴彦の展示会



Haruhiko Kaneko, maître céramiste d'Ishigaki



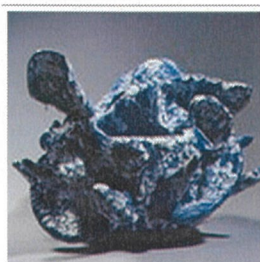
Manuel Valls, premier ministre



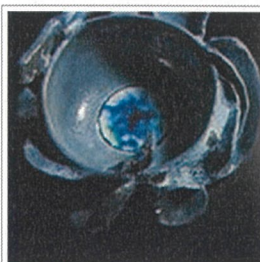
visiteurs au stand



Grand Palais



vase blue



vase bleu



nouveaux défilés



bol de thé

パリの国立グラン・パレ美術館で、9月10日から13日にわたってサロン・レヴェラッションが開催され、石垣焼の作家、金子晴彦氏が出展した。同サロンは、フランス工芸、手工業分野の職人、アーティストなど6000人以上の会員を擁する、フランス工芸界を代表する団体 **Ateliers d'Art de France** が主催する現代アート・クラフトの展示会だ。金子氏は2013年の第一回に続き、2度目の出展となるが、審査を通過して、正式出展した唯一の日本人アーティストである。沖縄の鉱石と透明なガラスとの融合から生まれる作品は、石垣の海の色を想起させ、その美しいブルーが多くの来場者を惹きつけ、オープニングの日には、マニュエル・ヴァルツ首相も金子氏のブースを訪れ、作品を褒め称えた。

Bisou : フランスの有名展示会に、すでに何度か出展されていますね。

金子 : 5年前の1月のメゾン・エ・オブジェがフランスでの最初の出展で、その翌年にカルセル・ルーブルの国際文化遺産展覧会、それから一昨年行われた第一回サロン・レヴェラッションです。とりわけ、サロン・レヴェラッションは審査が厳しいのですが、逆にコネなどもきかないし、フランスでのキャリアがなくても、作品そのものを平等に評価してくれます。力強く、見る人に訴えるものがある作品が選ばれているようです。

Bisou : フランス人の金子さんの作品への反応はいかがですか？

金子 : まず、フランス人はブルーが大好き、という印象を受けます。それから感想を言ってくれるのですが、「作品から水の滴る音が聞こえるようだ」、「生命の躍動感を感じる」、「あなたの作品はまるで楽譜のようだ」など、表現が個性的ですね。

子どもの頃からアートに囲まれて生活している人々なので、本物を見極める目がある、という気がします。フランスで認められれば、世界で通用すると思いますよ。

Bisou : 今後の出展予定を教えてください。

金子 : 10月にスペインで展示が決まっています。今後はイギリス、モナコなどでも出展したいですね。パリでは12月にソシエテ・ナショナル・デ・ボザール展に参加します。フランスでは今後も定期的に展示を続け、私の作品を見て、疲れを癒すために石垣島の海を見に来たい、と思うフランス人がいるとうれしいですね。

ソシエテ・ナショナル・デ・ボザール展は12月17~20日

www.salondesbeauxarts.com